

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173300441		
法人名	株式会社いづみ野		
事業所名	グループホームいづみ野		
所在地	埼玉県東松山市東平502-1		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症という生活のしづらさがあっても、本人らしく安心して生活できる事を大切にしています。常に利用者の立場に立つように努め、日々個々の状態を把握し、その人の変化に対応した支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者の強いリーダーシップのもと、職員一丸となり、日々「理念」に基づいたケアを実践されている。管理者が職員の話をもじっくり傾聴してくれることから、職員同士のコミュニケーションもよく職員の離職がないことにつながっている。また、ケアの取り組みにおいても、全て「個別ケア」にこだわり、研修の充実でもっと利用者の気持ちに添ったケアのあり方と利用者がどんなに不穏なときであっても自立支援を心がけた対応で、利用者との信頼関係を築かれている。一方、地域との連携では、東日本大震災後の計画停電時には、民生委員の方々の見回り訪問や、警察、地域住民などによる見守り、声かけが頻繁に行われるなど、地域との関わりがスムーズで様々な取り組みに効果を上げている。
 ・平成22年度の目標達成計画の災害対策についても、運営推進会議の参加者と合同で夜間を想定した訓練を行い、訓練後、緊急時の連絡方法の見直しや災害時に必要な物品等の再確認、事業所の間取り図の表示方法の検討等貴重なアドバイスをいただき、今後の課題とするなど目標に向けた取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人が人として人を支援する」を理念とし、見やすい場所に掲げている。事務所・宿直室には理念の具体化の内容を掲げ、職員会議等で話あい職員間の共有を確認し合っている。	人(家族・地域・職員)が人(尊厳・権利を大切に)として、人(一人ひとりの違いを理解し)を支援(その人らしく暮らせることを目指し)することを念頭に置き、職員は日々のケアの実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くには市民農園や梨園があり、朝の散歩では顔なじみになり、季節の採りたて野菜や梨・ブドウを玄関まで届けてくれたり、ホームの開園記念にはお赤飯をお届けする等交流しています。	近隣の方からは野菜や果物の差し入れがあり、散歩時には気軽に声をかけくださるなどの交流が日常的に繰り返されている。小学校の職業体験の訪問や地域の行事への参加もあり、地域とは笑顔の交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	埼玉県立大学主催のシンポジウムや松山中学3学年のボランティア学習計画などで認知症についてお話をする機会を頂いたり又きらめき大学の施設見学を受け入れる等、認知症の理解や支援に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況報告、地域の方からは自治会の活動報告を頂いています。今年度は「地域・家族・入居者・職員との交流」としイベントを盛り込むことで運営推進の輪が広がり、認知症の理解に役立っている。	運営推進会議には利用者全員の参加もあり、その場にいることが利用者の満足感となっている。様々なイベント時に合わせて開催することもあり、楽しみながら参加できると喜ばれている。地域で開催されるシンポジウムへの参加も依頼されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の管理者会議をはじめ、事業所同士の管理者会議・運営推進会議への出席をお願いしたり入居者の入退居や変化について報告する等、日ごろから協力関係を築くよう努めている。	市の担当者は、運営推進会議に出席のほか、グループホーム同士の会議や合同研修にも積極的に参加されている。外部評価結果や目標達成計画の説明を聞いていただいたり、相談ごとには素早く対応していただくなど、市とは良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から施錠のないケアに取り組んでいます。又、拘束の意味を正しく捉える為の話し合いを行っている。	なれあいの言葉がけや冷たい言葉がけなど「言葉の不適切ケア」をしないように、利用者一人ひとりを公平に、同じ目線で対応することを心がけている。外出しそうな利用者には、納得するまで職員と一緒に付き添い、自由な暮らしが出来るように支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアについて、身体的のみならず態度や言葉等、具体的な例をもとに職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は地域福祉権利擁護事業や、後見人制度の研修を受けており、入居者の安全保持に考慮し諸関係者(本人・家族・地域包括・司法書士)と連携し活用支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は職員2名対応することで説明漏れを防ぎ、ご家族の不安・疑問等的確に答えられるよう配慮しています。解約・改定では十分な説明を行いご理解を得て、異動の場合行き先が決まった時点での解約としています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部へ表せる機会は運営推進会議があります。散歩時・入浴時等リラックスしている時に職員が何気なく入居している不便等に耳を傾けるようにしています。ご家族には面会時・お支払時・カンファレンス時コミュニケーションを図り意見・要望をお聞きしています。	利用者が気持ちを伝えやすいように、くつろいでいる時等を利用して話を聴かれている。家族からは面会時やイベント時、カンファレンス等で要望を聴き取られている。運営推進会議では避難訓練についての意見をいただき、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で少しでもお茶を飲みながらリラックスできる時間を設け、日頃疑問に思っていることや提案等、言いやすい雰囲気を作っています。また、管理者は個々の職員とコミュニケーションを取るよう努めている。	職員から出された意見・要望は、日々の申し送りの中で解決に向けた話し合いが行われている。気づいたことは「気づきメモ」として職員全員で共有できるようにし、柔軟に対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は随時代表者と連絡を取り、勤務表の提出や職員状況、会議録や行事計画記録等提出して業務の内容を報告しています。必要な事態がおこったときは代表者に相談の上指示をあおいでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は個々に目標を持っており、年間計画の中で各自の立場経験などに基づき研修会に参加しています。職員周知の必要ある研修は、職員会議で報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回ほど懇親会を開き市の職員さんの協力参加もあり情報の交換をしています。また、新しい職員研修としてホームーの体験も受け入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用については必ずご本人とお会いして心身の状況を確認し、ご本人の思いと向き合い、困っていることや不安を受け止め、どのように生活して行きたいかを捉え、安心して生活できるよう関係作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にホームを見学して頂き、お話を十分聞き、今一番何に困っているかを把握し、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか、よく話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時、ご本人の現状、家族の事情等話を十分に聞きホームとして何ができるかを考え、ご本人にとって最善は何かを見極め、必要に応じたサービス機関に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常に自分だったら、自分の家族だったらどうしたいか、どうしてほしいかを考えるよう話している。共に大切な存在として生活を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方の不安寂しさを受け止め、必要によってはご家族と連絡をとり関係性に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご兄弟の面会や子供さんの友達は「おばちゃん久しぶり」等気軽に来て頂いてる。昔近くの小学校へ通っていたのと散歩を楽しみにされている。	人や物、考え方等、全てを馴染みとしてとらえ、個々の利用者の生活歴から、植木の世話、包丁を研ぐなど一人ひとりが出来ることに目をむけ、これまでの暮らしが継続できるように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとり尊重しながらも共同生活の中で協調し合えるよう職員が間に入り、お茶の時間、レクリエーション、食事作り等の場面でそれぞれ活躍の場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去されたご家族より適宜状況報告を頂き、再度入居のお申し込みを頂く等お付き合いは大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶の時間や散歩、入浴の触れ合いの中、何気ない会話から気持ちをキャッチする。お料理の好きな方、庭仕事の好きな方などそれぞれのこだわりを大切にしている。困難な方は、本人の視点に立った支援を心がけている。	今までできていたことができなくなった利用者でも、さらに「今」できることや好きなことを見つけて張りのある暮らしが継続できるように支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を得ているが、本人とのコミュニケーションにより、昔の話等ひきだし、これまでの生活の把握に努めている。コタツの好きな方、テレビの好きな方、独りぼっちが嫌な方等馴染みの暮らし方を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、記録、職員同士の情報交換により、一人ひとりの生活パターンを把握し出来る能力に注目支援している。昔覚えた数え唄等一字一句忘れずに語る力やうどん打ちのコツ等を引き出し能力の維持に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の要望を取り入れ、状況に応じてカンファレンス、モニタリングを行います。状態変化時ご家族へ連絡、早急な暫定プランを作成し、職員へ周知の徹底に努めている。	日常の変化や気づきは記録しておき、内容を確認しながら、利用者・家族・医療関係者等と連携しながら、職員全員で作成されている。定期的にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは常に見やすい状態にし、毎日の記録もプランに沿って記録している。特変の詳細は個人記録に記入し、気づき工夫はケアプランの横に書き込めるようになっている。記録をもとにプランの見直しを行いケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性はない。ホームとして家族の状況、その時々要望に応じて可能な範囲で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ市役所・町内会会長・民生委員・地域の代表の方と消防署の避難訓練や行方不明になりやすい方は警察の協力も得て理解を求め、安心して生活できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について本人、ご家族の希望をお伺いしています。希望病院を受診できるよう支援しています。	通院時には必ず看護師が付き添い、かかりつけ医との連携が図れるように支援されている。個別記録をもとに、医療機関への正確な情報伝達に努められ、受診内容は随時、家族にも伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの協力により24時間体制での相談と月2回の訪問看護で健康管理を行っています。ホーム内の看護師と連携し必要であればいつでも受診可能、先生よりアドバイスも受けられる状況です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安易な入院は避け、出来るだけ通院での回復を支援しています。入院が必要な場合は、ご家族と協力し、安心して治療できるよう必要な情報を医療機関へ提供し、面会し状態の把握に努め早期退院できるよう医療機関と協働しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	多機能性はない。ホームとして家族の状況、その時々々の要望に応じて可能な範囲で支援している。	「重度化した場合の指針」をもとに、利用者・家族に事業所としてできる可能な支援について、説明されている。医療連携体制も整えられており、緊急時にはいつでも受け入れてもらえる体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回消防署の協力により、職員全員緊急対応(応急手当・心肺蘇生法など)についてホーム内で指導を受けています。ほか消防署で行う上級救命講習や普通救命講習をうけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回火災・地震を想定した避難訓練を消防署の協力を得て行いアドバイスを頂いています。運営推進会議の議題に取り上げ地域の方に訓練の様子を見ていただき理解協力が得られるようお願いしています。	運営推進会議の参加者と合同で夜間を想定した避難訓練を行い、訓練後、緊急時の連絡方法の見直しや災害時に必要な物品等の準備、事業所内の間取り図をわかりやすく表示したらどうか等、貴重なアドバイスをいただき、3月の東日本大震災の際に活かされている。	運営推進会議の参加者と夜間想定訓練を行い、貴重なアドバイスを頂いたことが震災の際に役立っています。今後も引き続き、地域住民との協力体制や合同訓練の実施等に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの違いを尊重し状態に合わせてゆったりと優しい雰囲気、目を見て解る言葉で接するよう努めている。職員会議などで個人情報保護の大切さを話し合っている。	利用者の尊厳を守るために、声かけに気をつけている。触れられたくない言葉や不穏になる言葉を家族から聴き、職員同士で対応方法を確認しあい、利用者一人ひとりについて共通の理解を持つように心がけている。羞恥心に配慮した同性介助も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間、飲みたい物を選んで頂いたり、入浴準備では着たい洋服を決めたり、日常的に自己決定できる場面を作っています。コミュニケーションでは食べたい物や欲しいもの等さりげなくご本人の希望を引き出し叶える工夫を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活という枠の中基本的な一日の流れはあるが、朝、散歩に行きたい方は出掛けてみたり、食後自由にくつろげる時間、日記を書いたり、と思いいいに過ごされています。時々したい事等何気なく聞き取りを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の乳液やヘアークリームを使う人、育毛剤を気にされる方、カチューシャの使用、室内用キャップの工夫。鏡の前に立ちヘアブラシをあててもらいそれぞれのおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は一番の楽しみです。献立を発表しそれぞれの得意分野を発揮できるように職員は一人ひとり出来る事を把握し、難しい時は一緒に行っています。苦手な食材を他の食材に変えたり、好みの献立を取り入れる工夫をし、楽しい食卓を作っています。	包丁研ぎや野菜を刻む、食器を拭く等、利用者の力を活かしてできることをやっていたい。個別ケアとして、メニュー表を記入したり、食後に感想を書いていただくことで、食への興味や関心を持っていただく工夫をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行いグラフ化し推移を観察。食材の宅配業者利用で献立表と新鮮な食材を届けてもらっている。時には地元の方から頂いた野菜を盛り込みより豊かな食生活になるよう工夫している。常時手の届く場所にお茶を用意し自由に飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや誘導を行います。義歯の方は週1回ポリドント洗浄を行っています。口臭・炎症・義歯の不具合が生じたときは受診または、訪問歯科にて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレの設備あり、必要な時安心して使用できる状態です。トイレ誘導の必要な方はチェック表で排せつパターンを把握し、個人の状況に合わせ、パンツ・パットの種類やサイズも考え不安や羞恥心に配慮した言葉かけで対応しています。	利用者の様子を観察し、排泄パターンを把握することで、トイレでの排泄支援に取り組まれている。居室にトイレがあり、職員はトイレの気配を感じるとすぐに駆けつけるなど、さりげないケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜やヨーグルト等食事面で工夫。毎日の散歩・ラジオ体操・レクリエーションやリハビリ体操をとりにしている。入浴時は腹部のマッサージを促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回午後を予定しています。認知障害・身体機能低下も見られ現在お一人で入浴出来る方はおりません。入浴時間の長さ、回数、時間帯など一人ひとりの病状、皮膚の状態など勘案し、その方にあった入浴方法でくつろいだ入浴が出来るよう支援しています。希望でシャワー浴可。	利用者の重度化により入浴が難しくなっているが、個々の利用者の身体状態に応じ、柔軟な対応で入浴支援をされている。リラックスしたことで本音が聴けることもあり、安心して入浴していただけるよう取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活リズムを崩さないよう、毎朝のラジオ体操・散歩・食事の準備・入浴・レクリエーションなど、適度に疲労感を作り安眠に繋げている、落ち着かない方は側に居て心身を休めるよう個別に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の記録表にはそれぞれ服用している薬の名前・副作用について表示したものを添付しいつでも確認できるようにしている。薬の準備は看護師の管理の下行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	包丁研ぎの上手な方、お料理の好きな方へはIHの設置、俳句好きの方へはノートと鉛筆を状況に合わせて準備しています。うどん作りが好きな方へは腕を奮っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望は把握に努めている。余裕がある時はショッピングやお茶に、帰宅願望の強い方には自宅まで同行したりお墓参りに同行する等可能な限り対応に努めている。	重度化により、集団外出が困難になってきており、個別外出支援に力を入れている。カラオケを楽しまれたり、帰宅願望の強い利用者には、自宅まで一緒に行ったり、歩行が難しくなってきた利用者には、歩く距離を短くするなど、個々の利用者の希望や身体状態に応じた対応で支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時ご本人ご家族と金銭管理について話し合い、自己管理出来る方は行っている。困難な場合お預かり方法を説明しています。定期的に閲覧サインを頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な方は携帯電話を使用することもあった、暑中見舞いを出したい方へ葉がきを購入しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や季節をイメージ出来るものを飾り、吹き抜けのリビングは入居者の方にとって憩いの場となっています。皆さんで食事の支度が出来るようにキッチンには調理器具を用意しています。	大きな窓と吹き抜けのリビングに、職員と一緒に手作りした作品が飾り付けられており、落ち着いた共用空間が造られている。音や採光、空調にも気を配り、利用者が気持ちよくリラックスして過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間の必要性を大切に、また、入居者さん同志の会話が弾むようテーブルの配置に工夫している。リビングにはソファがあり思い思いに利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込み、今までの生活様式を取り入れている。お孫さんのお土産やご家族の思いのこもったテーブルや写真等、安心して過ごせる場所となっている。	テレビや家族の写真、仏壇等利用者が日常的になじんでいたものに囲まれ、心地よく過ごせる居室となっている。居室にはトイレが設置され、プライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方でも調理を楽しめるようIH調理器と高さに配慮したテーブルを用意しています。居室内見やすい所に時計・カレンダーを設置。共同トイレには解りやすいように大きめの表示で混乱を防ぐ工夫をしています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム いづみ野

目標達成計画

作成日: 平成 23年 11月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	前年に引き続き夜間に火災が起きた場合、夜勤者一人での避難誘導には不安や危険が伴なう。	運営推進会議等を通し地域住民との理解、協力体制の構築を図る。	地域の避難訓練へ参加したり、グループホームでの年2回の避難訓練には地域の方にも参加頂き、GHIに於ける避難の難しさを理解していただき、お互い協力出来る体制を作る。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。